

4. 調査結果

(1) 項目別評価（レーダーチャート）

アンケート設問は23あり、それぞれレベル1～5で評価した。これを6項目（避難備蓄、ハード対策、ソフト対策、医療、地域・互助）に分類し、平均点を項目別レベルとした。図2は、27年度もっともレベルが低かった矢並小学校区の例である。比較のために、豊田市全体の評価を併記してある。この様なレーダーチャートを分析する事により、自主防災会別、小学校別等の低評価項目が洗い出され、対策の必要性が定量的に明確化できた。

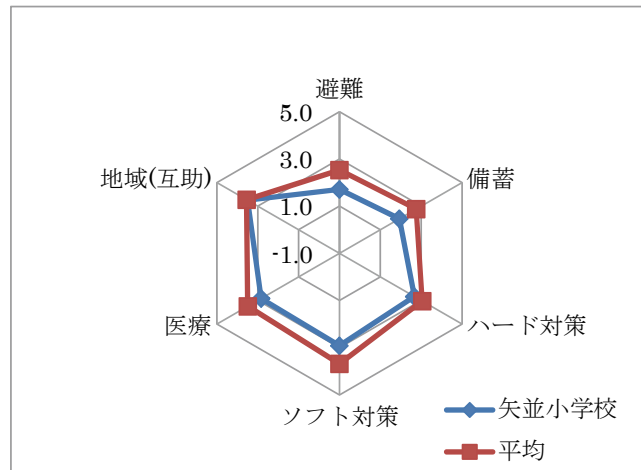


図2 豊田市75小学校区平均と矢並小学校区の比較

(2) 10年前と現在の家庭防災力比較

図3に、全ての小学校区におけるレベルの変化を示す。横軸は10年前のレベルであり、縦軸は現在のレベルである。45度の斜線より上であればレベルアップしたことになるが、2学区を除く小学校区において家庭防災力が向上したことが明白になった。

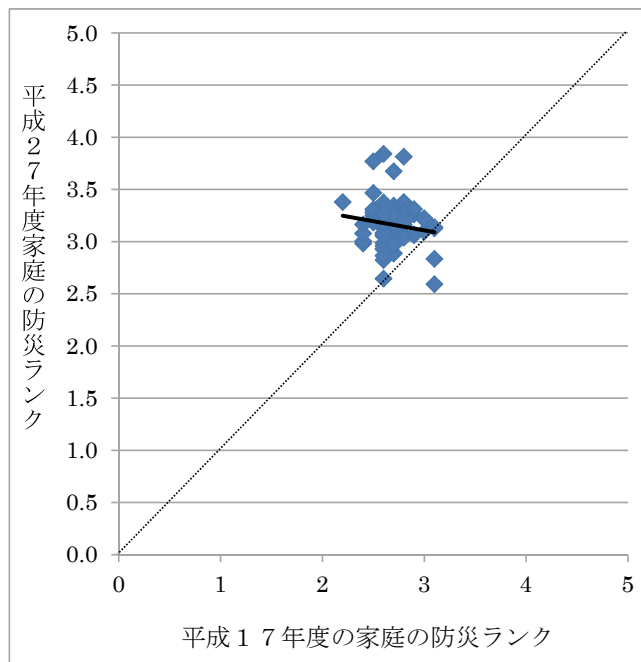


図3 75小学校区別家庭防災力の比較

(3) 東日本大震災前後および現在での防災力比較（変化）

図4は、評価6項目別に見たレベル変化である。すべての項目について向上が見られる。

図5は質問項目別に見た時間変化である。東北大震災直前、直後、および現在におけるレベルは明らかに順次向上していることが分かる（豊田市全体を対象）。他の22項目においてもこの順でレベルアップしており、東日本大震災を契機として防災力が向上している事は明らかである。一般的には、震災後関心が風化するとされているが、豊田市においては風化されず、現在も更に向上している事がわかった。

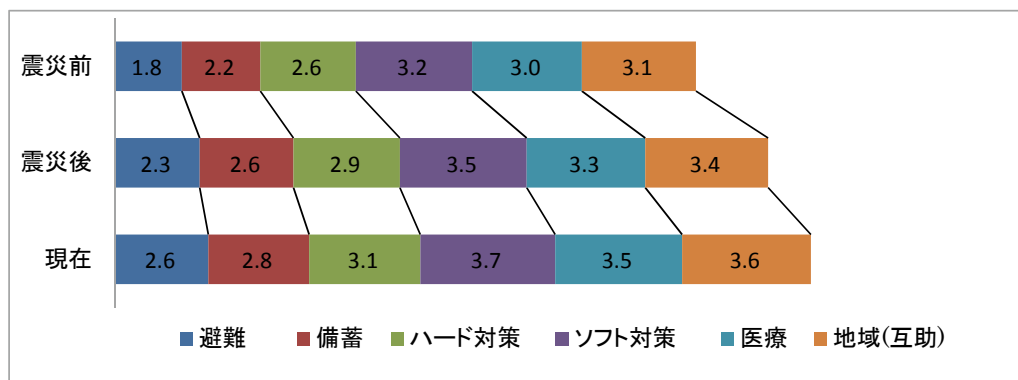
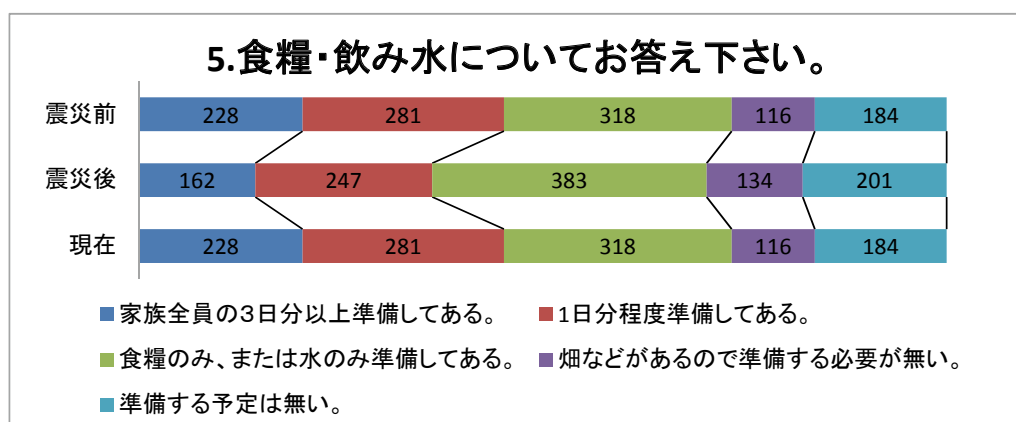
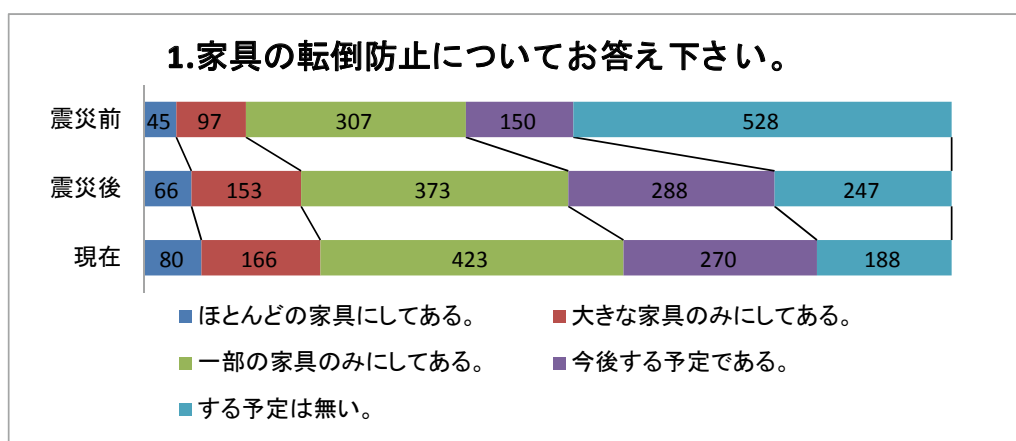


図4 6項目別に見たレベル変化（すべての項目でアップ）



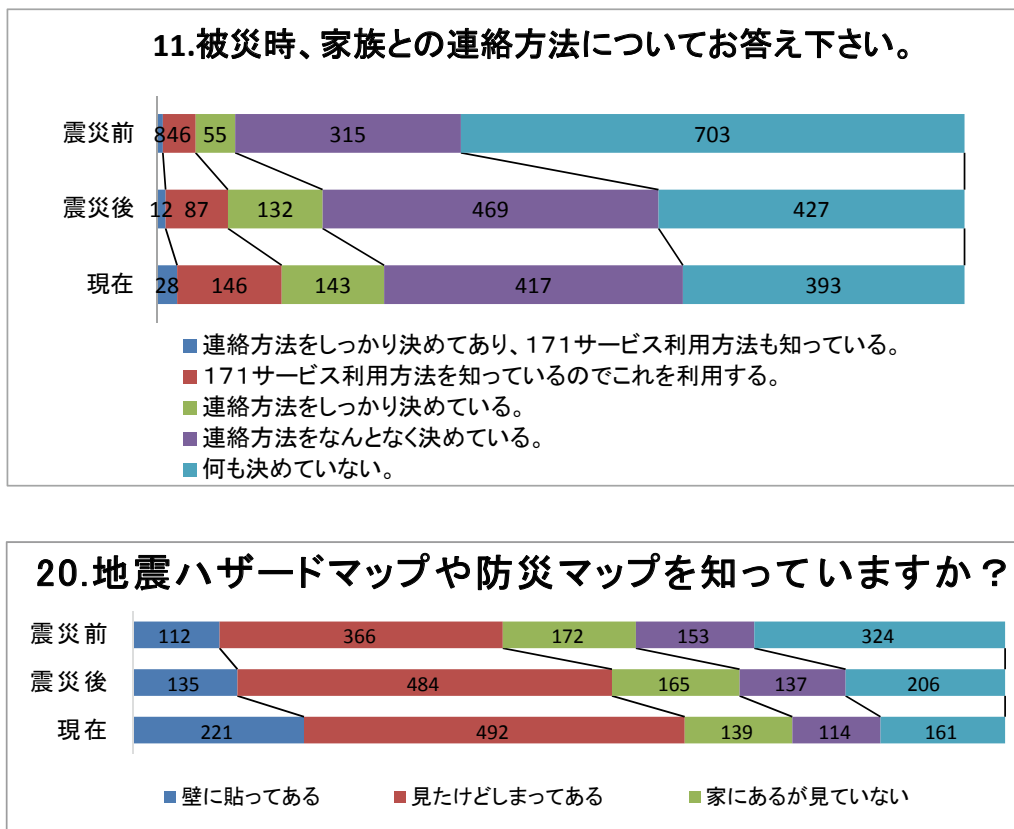


図5 質問項目別に見たレベルの変化

4. まとめ

10年前、東日本大震災直前、直後およびH27年度時点における豊田市民の家庭における市民一人一人の防災力は確実に向上していることが明らかとなった。回答者が10年前と異なる点に問題が残るが、東日本大震災前後および現在の回答者は同一人であり、この順でレベルアップが見られることは明らかである。ここ10年で防災力が向上したことは間違いのないと言えよう。